

薬理学

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：医薬品の生体におよぼす作用を理解する上で必要な基礎的知識を習得し、医薬品の有効性、安全性ならびに薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。また臨床的観点から薬物療法における看護師の役割を学び、チーム医療の一員としての重要性を理解する。

■**到達目標**：①薬物の作用に関する基礎的事項を理解し、説明できる。
②主な疾患の症状を理解し、薬物の作用を病態との関連性から説明できる。
③薬物相互作用や有害作用を理解し、薬物の有益性と危険性を説明できる。

■**担当教員**：

松本 真知子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 総論 (I)：薬理学の概念と薬物受容体
- 第2回 総論 (II)：薬力学と薬物動態学
- 第3回 総論 (III)：薬物相互作用
- 第4回 総論 (IV)：薬効と副作用
- 第5回 抗感染症薬
- 第6回 抗がん薬・免疫治療薬
- 第7回 抗アレルギー薬・抗炎症薬
- 第8回 末梢神経作用薬 (I)：交感神経・副交感神経作用薬
- 第9回 末梢神経作用薬 (II)：筋弛緩薬・局所麻酔薬
- 第10回 中枢神経作用薬 (I)：精神疾患・気分障害治療薬
- 第11回 中枢神経作用薬 (II)：神経変性疾患治療薬
- 第12回 心臓・血管系に作用する薬物
- 第13回 呼吸・消化器系に作用する薬物
- 第14回 物質代謝に作用する薬物
- 第15回 救急の際に使用する薬物／消毒薬

■**教科書**：『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』（医学書院）

■**参考文献**：『NEW薬理学』／加藤隆一、田中千賀子著（南江堂）
『パートナー薬理学』／重信弘毅、石井邦雄著（南江堂）

■**成績評価基準と方法**：講義内容に基づく基礎知識の理解度を問う筆記試験により主に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	6割以上の正答率	100%
授業態度	○	○	○	授業中の居眠り、おしゃべり、遅刻などは減点の対象とします。	
出席				2/3以上の出席率	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：広範囲にわたる内容を集中的に講義するため、出来るだけ欠席しないこと。教科書の内容に沿った講義資料を配布するが、より理解を深めるため、予習・復習をしっかりと行うこと。得られた知識を確認し、ポイントを理解するため、各章ごとに小テストを行う。小テストは、過去数年間の看護師国家試験から抜粋した問題を含む。